

獨協大学 ニュース

DOKKYO UNIVERSITY
NEWS

1

2021

VOL.471



Campus News

第48回

学生懸賞論文審査結果発表

午後の談話室

L.G.ボンド 交流文化学科教授

Cover People

並木秀尊選手
(本学初のプロ野球選手)

 DOKKYO UNIVERSITY

A DEAN MESSAGE
学部長メッセージコロナ禍での就職活動
～変容した世界でも、
出会い、学び、成長するために～

法学部長 鈴木 淳一

SUZUKI Junichi
修士(法学) 筑波大学

- 専門
国際法(国際公法)
- 担当科目
国際法
国際人道法
国際組織法

はじめに

新型コロナウイルスは私たちの大学生活を一変させてしまいました。遠隔授業で学ぶことはこれまでの学習とは異なる新しい挑戦であり、慣れない授業に苦勞された方も多かったことでしょう。私たちは新しい時代に対応することを余儀なくされており、今回お話しする就職活動(以下「就活」)においても、厳しい状況に直面する可能性もあります。その際に過度に不安に感じることがないように、大学での「学問(Wissenschaft)」を通じて、1年生のうちから就活の準備を一緒にしてゆくための「コツ」をお伝えします。

就活で「あなたの魅力」を知ってもらうために

「コロナ禍によって変容した世界では、

人々が直接に出会う機会が減ってきています。多くの企業がリモートワークを採用し、採用活動も遠隔で行うことが多くなってきました。人との出会いが困難となっているので、逆に人となることができ、機会が貴重となっています。

獨大生のよいところは真面目に「コツ」で勉強ができることです。では、真面目できちんとしていることを含めて、自分が持っている能力や魅力を遠隔で理解してもらうためにはどうしたらよいのでしょうか。

遠隔授業を通じて皆さんは様々なスキルを身につけてきました。なかでも遠隔授業で培った「読む力」と「書く力」は、皆さんを生涯支える財産の一つとなるはずです。それだけではなく大学の成績は、皆さんの

能力や努力の証明でもあるため、就職や留学にあたって評価されることもあります。また法学検定、宅建、行政書士、司法書士、簿記会計、公認会計士などの資格試験や公務員試験も、学力を確認するためのわかりやすい指標です。大学の講義を利用しつつ、これらの試験の合格を目指しましょう。

さらに、英語をはじめとした語学の資格を取得しましょう。法学部や経済学部出身者も「語学の獨協」の学生として語学力を期待されることがあります。今後は遠隔技術を利用した外国との交流が一層加速することが予想されます。遠隔であっても外国語で交渉できることは、皆さんの価値を高めるでしょう。たとえ語学が苦手な人でも、語学への学習態度を通じて、困難な事態に直面した時に皆さんが物事に挑戦する姿勢をアピールすることができます。

コロナ禍で出会いが難しいにもかかわらず、就活では「出会い、学び、成長する」というストーリーが求められる

就職までの道のりから逆算すれば、大学の4年間は短いです。この数年の傾向として、3年生の夏休みに実施されるインターシップは、採用に直結することがあります。大学のカリキュラムは3年生から本格的に専門科目が始まることが多いにもかかわらず、3年生までの学びと活動を通じて、皆さん自身の魅力や実力を示すことが必要となります。満足のいく就活ができた先輩の中には、1年生の時から準備して、自分の魅力をアピールできるストーリー作りをしていた人もいます。

大学での勉強に加えて、たとえば学内外のサークル、コンテスト、アルバイト、留学、ボランティア、インターシップ等にチャレンジして、あなただけの有意義な大学生生活を過ごすことができれば、自然と皆さんの実力や可能性を示せるようになるでしょう。たとえ遠隔であっても、新しい人との出会いは皆さんに刺激とエネルギーを与えてくれることでしょう。

就活の観点からすれば「コロナ禍でも、出会い、学び、成長できる」というストーリーとして大学生活を描けることが大切です。

投資としての

「未来への準備のための時間のすすめ」

大学生活では「大学での学びのための時間」と「未来への準備」のための時間の両立が大切です。大学の勉強をしながら、サークルやアルバイト、資格試験や公務員試験の勉強など、未来への準備のための活動をバランスよく行うことが必要となります。

もちろん大学での「学問」は就活のためだけにあるわけではありません。ただ、就活を見据えて様々な挑戦をすることは、世界や社会への興味を喚起し、人生や大学での学びの意味、モチベーション、インセンティブを与えてくれるでしょう。

皆さんの挑戦を応援するために、大学にはキャリアセンター等の様々なサービスがあります。大学での「学問」を活用することで、皆さんの就活体験が、出会いと成長の貴重な機会となることを期待します。

硬式野球部 並木秀尊選手が プロ野球・東京ヤクルトスワローズから指名

10月26日に行われたプロ野球ドラフト会議で、硬式野球部の並木秀尊選手(済4年)が東京ヤクルトスワローズから5位指名を受けた。NPB(日本野球機構)所属球団からの指名は開学以来初の快挙。当日、学生センター雄飛ホールで指名を待った並木選手は、その瞬間が訪れると集まった硬式野球部の4年生部員らと喜びを分かち合った。10月30日には球団による指名挨拶、11月27日に仮契約がそれぞれ本学で行われた。その後、並木選手は球団と本契約を締結。晴れて東京ヤクルトスワローズの一員となった。

並木選手は、部活動と勉強とを両立する目標を持って2017年4月に本学に入学した。亀田晃広硬式野球部監督は「入部当時から身体能力が高く、特に走塁には目を見張るものがあったが、本人が自分の才能に気づいていなかった。どうすれば本人に気づいてもらえるかを考えながら接してきた」という。部員同士が話し合って自主的に活動方針や練習メニューを決めるという硬式野球部の環境の下、並木選手は主体的に部活動に取り組むようになった。その結果、3年春・秋と4年秋のリーグ戦でベストナイン賞を受賞するまでに成長した。

並木選手がプロ野球スカウトに注目されるきっかけとなったのは、2019年11月の大学生全日本代表候補

合宿。同合宿には例年、選考委員会から選出された全国の有力選手が集まる。本学硬式野球部のように2部所属チームだと、選手はなかなか注目されない。そこで亀田監督と上田樹マネージャー(独4年)は、過去の試合映像から並木選手の俊足ぶりが分かるものを厳選し提出。それが選考委員の目に留まり、異例の代表候補入りを果たした。並木選手は、この合宿で行われた50m走で参加メンバー中、最速タイムを計測した。さらに紅白戦では3安打を放つなど、スカウトに「獨協大学・並木」の名を強く印象付けた。これを契機に、各種メディアへの露出も一気に増えた。並木選手は「代表候補合宿を経験することで、これまで憧れだったプロ野球が具体的な目標に変わった」と振り返った。

昨年の一時期は、プロ入りを目指す上で大事な時期にも関わらず、思うような練習ができない日が続いた。「こんな時こそ自分が成長する機会だ」と捉え、トレーニングに励んだ。近所に住むチームメイトや中学時代の友人が練習相手になってくれた。本人の努力と周囲の協力が実を結び、プロ野球への扉が開かれた。



指名された瞬間、亀田監督(左)と握手する並木選手(右)

獨協大学GLOBAL FRONTIER: Virtual Fair 2020開催(10/19~10/28)

国際交流センターは毎年、学生に留学・海外体験に対する情報を提供し、早期からの準備を促すことを目的とし、政府・文化団体等の協力を得て「留学フェア」を実施している。今年度の留学フェアは、オンライン形式による「Virtual Fair 2020」として、10月19日から28日まで開催した。期間中の昼休み時間帯に14のミニセミナーをリアルタイムで配信したほか、留学経験者によるオンライン相談会も行った。ミニセミナーでは、最新の留学・渡航情報、留学計画の立て方や準備、今すぐ実践できる語学学習法などを紹介。海外渡航が困難な時期ではあるが、多くの学生にとって留学・海外体験への理解を深め、目標実現に向けて一歩を踏み出す契機となった。ミニセミナー資料・動画は一部を除き、PorTa II掲示板【留学支援・国際交流】に掲載中。現在国際交流センターではメール・Zoom等による留学相談を受け付けている。



令和2年秋の叙勲 酒井府元学長が瑞宝中綬章を受章

11月3日、秋の叙勲受章者の発表があり、酒井府元学長・名誉教授(86歳)が研究と教育に関する功績により「瑞宝中綬章」を受章した。これは国家または公共に対する公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた人に授与される日本国の勲章の1つ。

本学では、12月9日に叙勲祝賀会を開催し、学長をはじめ教職員が受章を祝った。酒井名誉教授は「今回の叙勲は、獨協大学に関係するみなさんが支えてくださったからこそ受章できたものです。今後も元気に研究を続けていきたい」と述べた。

酒井名誉教授は、76年ドイツ語学教科教授に就任、同学科長、学生部長、外国語学部長などを歴任し、その後、93年8月から96年3月まで学長を務め、その間学校法人獨協学園理事・評議員も務めた。また、2011年から現在に至るまで世界文学会の会長も務めている。



妻・明子さんと酒井元学長(写真中央にあるのが勲記)

学友会 新役員一覧

第57期 学友会		第57期 文化会		第57期 体育会		第47期 愛好会		第57期 監査団	
委員長 井下 裕二郎 (いした ゆうじろう) (律2年)	副委員長 田村 瑞貴 (たむら みずき) (英2年)	委員長 永野 優花 (ながの ゆうか) (英2年)	副委員長 吉水 七絵 (よしみず ななえ) (環2年)	委員長 川原 来希 (かわはら らいき) (営3年)	副委員長 多田 愛理 (ただ あいり) (営3年)	委員長 イ ジュヨン (い じゅよん) (仏2年)	副委員長 小原 卓真 (おはら とうま) (律2年)	団長 高田 歌帆 (たかた かほ) (律2年)	副団長 森下 敬也 (もりした たかや) (律3年)

第4回図書館講演会開催

11月4日、第4回図書館講演会がオンラインで開催され、過去最多となる約60名の学生と教職員が参加した。今回は、山口誠交流文化学科教授が「日本文化としての『CA』と『おもてなし』—獨協大学図書館で『客室乗務員の誕生』を書いて—」というテーマで講演した。

山口教授は、まず時代とともに変化してきた「客室乗務員」の呼称や役割を説明した。次に、「無償奉仕」や「自己研鑽」に加え、一般常識や教養を得た先にある「品格」を特徴とした、日本独特の「おもてなし化」について解説。日本社会が、客室乗務員のような「おもてなし」に溢れている一方、おもてなしの多様化の必要性にも言及した。質疑応答では、教授のユーモア溢れた回答もあり、オンライン会場は盛り上がりを見せた。



外国語教育研究所 第10回公開講演会を開催

11月13日、外国語教育研究所は言語学者・作家の川添愛氏を招き「AI時代の外国語教育を考える」というテーマで第10回公開講演会をオンラインにて開催した。

川添氏は、今の人工知能の中心的技術である機械学習と、機械翻訳における機械学習、誤訳が起こる仕組みを解説した。そして、機械翻訳では、文化的な背景やその場の話者の意図までをくみ取るのは難しく「言葉を理解するAI」という認識には注意が必要であると指摘した。さらに「AIは外国語教育で活用できる場もあるが、重要なのは母語を含め言語を客観的・科学的に捉え、他言語の文化・社会的な背景を学ぶことであり、その姿勢を涵養するのが外国語学習、外国語教育なのではないか」と論じた。平日の夜にもかかわらず、研究者、教員、学生のほか、会社員など一般の方々を含め160名もの参加があった。質疑応答には多くの質問が寄せられ、充実した講演会となった。



川添氏(写真左上)

宗田貴行国際関係法学科教授が 横田正俊記念賞を受賞

宗田貴行国際関係法学科教授が第35回(令和元年度)横田正俊記念賞を受賞し、10月22日、東京都港区にある公正取引協会事務所にて授与式が行われた。

今回受賞の対象となったのは、宗田教授の論文「独禁法・景表法違反に係る消費者被害救済の改善」(2019)、「ドイツ競争制限禁止法上の行政処分による集団的消費者被害救済」(2019)、「ドイツにおけるムスタ確認訴訟制度の運用：ディーゼル排ガス不正プログラム事件を素材として」(2019)と、獨協大学法学会の紀要『獨協法学』に2015年度以降掲載した複数の論文に代表される一連の研究実績。同賞の受賞は、本学教員では初めて。



宗田教授(写真左)

2020年度父母懇談会オンライン開催

10月17日、父母懇談会(主催・獨協大学父母の会)がオンラインで開催された。例年、集会形式で実施されているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止と出席者の安全確保に配慮し、映像配信とオンライン会議ツールを使用した学部学科別懇談会の2部構成での開催となった。

映像配信では、山路朝彦学長(父母の会名誉会長)がコロナ禍における大学の対応について報告。また、岡田圭子キャリアセンター所長、採用コンサルタント谷出直正氏、内定取得学生による就職に関する講演が配信された。学部学科別懇談会には、223名の父母および保証人が参加した。



学内ではオペレーターがスムーズな進行をサポートした

第7回交流文化学科フォーラムを開催

11月25日、第7回交流文化学科フォーラム「国際協力・地域づくりの現場から」がオンラインで開催された。当日は卒業生3名がパネリストとして参加。山崎信彦氏(15年卒)は、フランスの大学院修了後に現地で従事する地域通貨プロジェクトについて説明し「海外で地域づくりをする際には、行動、調査、チャレンジが重要」と述べた。鈴木育未氏



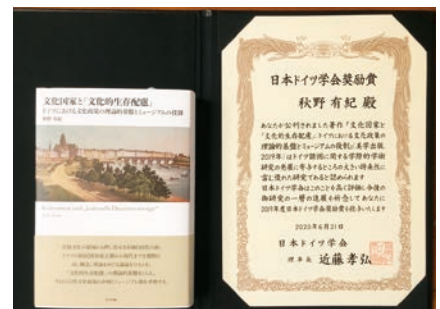
ペルーで活動する鈴木氏(写真奥)

(15年卒)は青年海外協力隊員としてペルーで手掛けたコミュニティ開発等について、川口直人氏(18年英卒)は勤務するソーシャルベンチャー企業で取り組む横浜市内の地域活性化について、実体験を交えて話した。司会は北野収同学科教授が務め、108名の学生および教職員が参加した。

秋野有紀ドイツ語学科准教授の著書が 日本ドイツ学会奨励賞を受賞

秋野有紀ドイツ語学科准教授の著書「文化国家と「文化的生存配慮」ドイツにおける文化政策の理論的基盤とミュージアムの役割」(美学出版、2019)が、2019年度日本ドイツ学会奨励賞を受賞した。ドイツの国民国家成立期から現代までを視野に、法、概念、理論をめぐる議論をひもとき「文化的生存配慮」の理論的基盤をとらえ、今日の公的文化政策の中核とミュージアム像を考察する内容となっている。

同賞は、日本ドイツ学会が、ドイツ語圏に関する将来性に富む優れた研究業績を顕彰し、ドイツ語圏に関する学際的学術研究の発展に資することを目的としている。



第48回学生懸賞論文審査結果

2020年10月23日を締切とした第48回学生懸賞論文には、35編の応募がありました。そのうち、審査基準を満たした34編について、審査委員会で協議した結果、最優秀賞は該当無し、優秀賞1編、審査員奨励賞1編が選定されました。

■最優秀賞 0編

該当なし

■優秀賞 1編

「多文化教育が抱える問題点 — インターナショナルスクールを事例に —」
国際教養学部言語文化学科2年 参田 沙良(さんだ・さら)

■審査員奨励賞 1編

「フィリピンにおける義務教育のドロップアウト削減にむけた提案」
経済学部経営学科3年 佐野 寿来(さの・じゅらい)

審査講評

まずは、審査委員一同、応募したすべてのみなさんに敬意と感謝を表したいと思います。今年度(第48回)学生懸賞論文募集に際しては、昨今の社会情勢によって研究・学習活動が制限されていることをふまえ、「自由課題」といたしました。その結果、昨年よりも多くの応募があり、さまざまな分野・論点の論文が出揃いました。

審査の過程では、各審査委員が8-9編ずつ査読し(第1次審査)、そこで推薦されたすべての論文を審査員全員で査読(第2次審査)しました。事前に発表された審査基準をもとに、問題設定の明確さ、論旨の一貫性、先行研究やデータの適切な使用、調査方法の工夫、結論の妥当性、さらに研究の将来性や独創性など、様々な角度から検討し、厳正な審査の結果、最優秀賞0編、優秀賞1編、審査員奨励賞1編が選ばれました。

全体的な傾向について、審査員からの指摘はおおよそ2点に集約されます。ひとつは、引用資料・データや参考文献、先行研究などを、効果的に扱いきれていない論文が多かったこと。もうひとつは、定型的な(パターン化された)展開・書き方が一部の応募者のあいだに垣間見られたことです。程度の差はあれ、多くの論文にそういった傾向があったため、残念ながら今年度は最優秀賞に値する論文はありませんでした。

そのなかで優秀賞に選定された「多文化教育が抱える問題点—インターナショナルスクールを事例に—」については、自らの経験をふまえて、独自の調査を試み、多文化共生を推進する学校教育に対しクリティカルな視点で切り込んでいる点、審査員からは高く評価されました。ただし、インタビュー事例の数や先行研究の掘り下げ方が不十分であり、やや主観的な展開になっている印象も否めず、最優秀賞には届きませんでした。今後、同じテーマを追っていくならば、そういった点を検討していただきたいです。

審査員奨励賞の「フィリピンにおける義務教育のドロップアウト削減にむけ

た提案」は、フィリピンの貧困家庭に育つ子どもたちの就学を支援する取り組み(使用済みプラスチックと給食・学費との交換)を、社会的・経済的背景をふまえて紹介・推奨した論文です。多くの資料がうまく整理され、着眼点の良さが評価された一方、インターネットから入手できる情報や公的データに偏重し、自らが入手した情報、独自の展開や提案、既存の取り組みへの批判的な視点も不十分であることから、入賞にはいたりませんでした。自身の経験や考えをもっと積極的に出していく姿勢があると、より臨場感のある論文になったかもしれません。ぜひとも継続的にこの問題にかかわってほしいと願います。

最終審査に残らなかった論文のなかにも、テーマ設定や着眼点、独自性、大学生らしさといった点においてキラリと光る論文がいくつかありました。人種差別問題をとりあげた論文は難しいテーマ設定にもかかわらず果敢に取り組んでいる姿勢がみられました。ラテン語学習と英語習得との関連性を論じた論文では、先行研究の整理が丁寧になされており、今後の発展が楽しみです。このほか、芸術・芸能に関するテーマや、昨今の世情に切り込んだ理論的研究もあり、学生諸氏の研究関心・研究方法の多様性をあらためて感じることができました。具体的な解決方法や単純な結論づけが困難な論題に対し、臆することなく挑む意欲に、審査員一同、心からの拍手を送ります。人文知を軽視し、難解な問いが敬遠される今こそ、そういった論題を探索することの大切さを感じずにはいられません。応募してくださったみなさんには、今後の研鑽を期待しますと同時に、来年度も懸賞論文にチャレンジしていただきたいと願います。

第48回学生懸賞論文審査委員

委員長 岡村 圭子(国際教養学部教授) 委員 廣田 愛理(外国語学部准教授)
委員 内倉 滋(経済学部教授) 委員 大藤 紀子(法学部教授)

●優秀賞

多文化教育が抱える問題点 — インターナショナルスクールを事例に —



国際教養学部
言語文化学科2年
参田 沙良

インターナショナルスクールでは多国籍な生徒が在籍しているため、多文化教育が積極的に行われている。多文化教育の目標の一つとして、文化的な差異を自覚することが掲げられている。しかし実際に学校で導入されている多文化教育は、国際交流イベントといった異文化間の差異に重きが置かれている場合が多い。そのため、「文化の内なる差異」を見過ごす傾向にあるという問題点が指摘されている。

本稿では多文化教育が抱えている問題点が、インターナショナルスクールにおける「異民族間の差異」に対しては寛容になり、「内なる差異」に対しては厳しく対応をする、特殊な排除の構造を作り上げることにどれほど関与しているかを分析する。

●審査員奨励賞

フィリピンにおける義務教育のドロップアウト削減にむけた提案



経済学部
経営学科3年
佐野 寿来

フィリピンは近年、急激な経済成長を見せている。THE WORLD BANKによると、2019年度のフィリピンの一人あたりのGDPは約3,337.7米ドルまで上昇している。しかし、急速に成長を見せていたフィリピンの経済であるが、実際にはその影響が国民の資産には反映されていないのが現状である。たとえ、どんなに経済が上向いたとしても、貧困層は貧しいまま、貧富の格差はなくならないということである。少しでも貧困層の人たちが今生活している水準よりも高い水準

で生活してほしいと筆者は考えている。本稿では、フィリピンにおける義務教育のドロップアウト削減にむけた提案をする。本稿の構成は以下の通りである。第2節ではまず、フィリピンの貧困と教育の現状について明らかにする。次に第3節では、フィリピンにおける貧困層のドロップアウトの要因と問題点について述べる。そして第4節では貧困層に対しての給食支援サービス普及の提案をして、第5節で本稿の結びとする。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために

新型コロナウイルス感染症は、現時点で収束の見込みが立っていません。このような状況下ではありますが、本学の新学期の授業は対面で実施することを基本とし、集団感染のリスクを極力低減する取り組みを行った上で実施する予定です。

昨年来、感染対策の基本的な部分は変わっていません。「日常生活ではマスクを着用する」、「手洗い、うがい、消毒をこまめに行う」、「三つの『密』(密閉、密集、密接)を避ける」といった取り組みを継続することが、自身の感染の抑止力となり、ひいては感染拡大の防止にもつながります。

在学生の皆さんが安心して通学し、授業を受けるためには、学内の全ての人が感染対策を徹底することが求められます。今冬を乗り切り、皆で健康に新学期を迎えられるよう、一人ひとりが意識して感染拡大防止に取り組みましょう。



密集回避 密閉回避



密接回避

午後
の
談
話
室

第26回

外国語学部 交流文化学科

L.G.ボンド 教授

Lisa Gayle BOND

ペイラー大学文学部国際政治政策学科に在学中、交換留学生として初めて日本へ。卒業後カンザス州立大学大学院東洋言語・文化学科へ進学、文部省国費留学生として筑波大学大学院に留学。その後、筑波大学大学院 哲学・思想研究科修士課程を修了、博士課程単位取得満期退学。京都文教大学、関東学院大学などで英語教育に携わり、2017年に本学着任、19年より現職。

好きな言葉: “Though we travel the world over to find the beautiful, we must carry it with us or we find it not.” 美しいもの・すばらしいものを求めて世界中を旅しても、自らの中にそれを持っていなければ、見つけ出すことはできない——アメリカの思想家、エマーソンの言葉。また映画『スターウォーズ』で、ヨーダが「失敗こそ最大の師だ」と語るシーンには「まさにそのとおり!」と、涙が出るほど共感した。

趣味: 読書、音楽(聴く・弾くなど)、旅行。日本の温泉が大好きで「お風呂三昧」がストレス解消法。



偶然から、道が広がる

日本との出会い

ボンド先生が初めて海外を訪れたのは、高校を卒業した18歳のときのこと。インドで約1ヶ月間を過ごした。「フランス語を勉強していたので、はじめはフランスに行きた

いと思っていたのですけれど。それでも、このインドでの経験があったことで、もっといろいろな国での生活を体験したい、そしてアメリカが他の国の人たちからどう見られているのかを知りたいと考えるようになりました」

大学に進学し、国際政治を専攻。やがて留学の機会を得ることができたが、行き先はやはりフランスではなかった。「それが、日本と出会ったきっかけでした。その頃は特に日本のことを勉強していたわけでもありませんし、日本語も全くわかりませんでした。しかしこの留学が、その後の人生を変える大きな経験になったのです」

日本留学中に授業で取り上げられ、ボンド先生が強く惹かれたのが『歎異抄』だった。浄土真宗の開祖・親鸞の教えをもとに編まれたこの書物は、

哲学者の西田幾多郎らにも大きな影響を与えたという。ボンド先生もまた、古い書物の奥深い魅力に引き込まれ、日米の大学院で日本の思想史研究に取り組みことになった。「学生の皆さんも、こうした出会いや偶然を大切にしてもらいたいと思っています。勇気を持って一歩踏み出せば、自分で考えているよりももっとたくさんチャンス、ずっと広い道があるはずですよ。もし失敗しても、それがあから勉強になる。失敗はすばらしいことだと思っています」

学びという旅

古典を読み解けば、そのものの魅力だけでなく、現在の日本社会・文化を理解するヒントも見つけられるという。「歎異抄はもちろんです、たとえば千利休の書物にしても、人間

のあり方や関わり方についての思想が示されています。古いものをゆっくり読み、考えを深め、日本の伝統や文化・思想への理解を持って世界を見ることもできたなら、どんなにすばらしいものとの出会えるだろうかと思えます」

「コロナ禍にあつて、海外を訪れることはもとより、キャンパスでの授業も難しくなりました。それでもそれぞれの時間を過ごす間に本や思想に触れることで「内なる旅」を進められるかもしれない。そしてこうした経験は、人と出会うことや、一緒にいる相手の存在がどれだけ大切かを改めて考える機会になるだろう。」

「私が授業を楽しむにしているのは、教室で会う学生たちから刺激を受けられるから。オンライン授業ではそれも難しいのですけれど、この大変な経験を忘れず、今後にもどう生かしていけるのか、皆さんと一緒に考えていくことをとても楽しみにしています」

MY RECOMMENDATION

ボンド先生の故郷は、アメリカ南部のオクラホマ州。日本の半分ほどの広さがあり、片手鍋(フライパン)のような形をしています。その郷土料理の一つが「フライドピクルス」。ピクルスにスパイシーなこもを付けて揚げたもので、「ハンバーガーショップでも付け合せとして選べるくらい、オクラホマではなじみのあるスナックです。ビールのおつまみにもぴったり」とのこと(ちなみに、先生は日本のビールがお気に入りだそうです。ほかにも納豆や枝豆、梅がお好きとのこと)。

また、旬を迎える夏にフレッシュな黄桃でつくるお菓子「ピーチ・コブラー」は、お祖母さまがよく作ってくれた思い出の味だとか。「アイスクリームをのせて食べると最高ですよ!」と、それは美味しそうな表情で教えて下さいました。

加藤 偉重(名誉教授)分担執筆

『牧野植物図鑑原図集 — 牧野図鑑の成立 —』

北隆館 2020年3月 13000円



牧野富太郎博士による『牧野日本植物図鑑』は、1940年当時の植物学会を象徴する名著です。そんな同書の刊行80年を記念し、新発見の原図を掲載し、新たな図集を制作しました。

木本 玲一(言語文化学科非常勤講師)分担執筆

『ポピュラー音楽再考

— グローバルからローカルアイデンティティへ』

せりか書房 2020年3月 3000円



ポピュラー音楽を扱った待望の論文集です。20世紀初頭から現代までおよそ100年にわたるその歴史を読み解くことで、「コンテンツ」という枠に収まらないその魅力と価値を解き明かしています。



本箱

本学の先生方が執筆された新刊情報。授業の中だけでは見られない先生の違った一面に触れることができます。

Books column

四元 康祐(言語文化学科非常勤講師)著

『ホモサピエンス詩集

四元康祐翻訳集現代詩篇』

澤標 2020年3月 2000円



著者がこれまで詩祭などで出会った世界22カ国、32人の詩人たちによる最高の詩作を収録。様々な言語で編まれたまばゆい言葉の数々、世界の詩の最前線を、この一冊で垣間見ることができます。

岡村 国和(経営学科教授)編著

『読みながら考える保険論(増補改訂第4版)』

八千代出版 2020年4月 2700円



「難しいことを易しく、易しいことをより深く」を主眼に編まれた保険の入門書。初版刊行から10年間で3度の増補改訂を経て、より分かりやすく、かつ幅広く対応できる一冊になっています。

高松 和幸(経営学科教授)著

『経営組織論の展開[新版]』

創成社 2020年5月 2000円



伝統的な組織論から近代の組織論まで、古今東西の経営組織論を網羅・展開した一冊。入門書に使えるだけでなく、各章の設問パートを活用すれば、副読本としても大いに役立ってくれます。

白川 貴子(交流文化学科非常勤講師)訳
(フリオ・ホセ・オールドバス 著)

『天使のいる廃墟』

東京創元社 2020年6月 1600円



廃墟の村、「パラソ・アルト」を訪れるのは人生をあきらめた人々。かつて自殺を試みた主人公も、彼らの話を聞く「天使」の役割を与えられる。天使と人々が紡ぐ、繊細で暖かく、美しい物語です。

小野 秀誠(法律学科教授)著

『大学と法律家の歴史

— ドイツ法学の形成と現在(上・下)』

信山社 (上)2020年4月 12000円 (下)2020年6月 10000円



14世紀末から現代までのドイツにおける大学法学部の変遷を丹念に追った意欲作。その流れから、かいて現代の法学、法書教育が育まれてきたのかを読み解くとともに、今後の動向を描き出します。

安部 哲夫(法律学科教授)共編著

『ビギナーズ犯罪法』

成文堂 2020年6月 3200円



刑法を法文や条項などではなく、実際の犯罪の類型、ケースで分類・解説する法学入門書です。社会学など他分野の視点も取り入れ、実例をあげつつ犯罪を扱う法律を読み解いています。

高橋 均(総合政策学科教授)著

『実務の視点から考える会社法(第2版)』

中央経済社 2020年7月 3100円

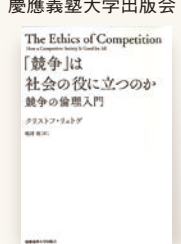


本書は会社法の全容を明確に示すとともに、著者の経験も踏まえて、同法を実務上も役立つための一冊となっています。令和元年改正会社法の内容を反映しつつ、第2版として改訂・出版されました。

嶋津 格(総合政策学科特任教授)訳
(クリストフ・リュッゲ 著)

『「競争」は社会の役に立つのか — 競争の倫理入門』

慶應義塾大学出版会 2020年8月 2200円



近年、資本主義批判とともに「競争」を嫌う声も現れています。しかし、果たして競争は悪なのでしょうか？ 哲学、倫理、教育、政治など、様々な視点で「競争」を読み解き、その価値と役割を説明します。

四元 康祐(言語文化学科非常勤講師)編

『地球にステイ! 多国籍アンソロジー詩集』

クオン 2020年9月 1500円



2019年末より、新型コロナウイルスの猛威により世の中は激変しました。そんな中、詩人たちは何を見て何をうたうのでしょうか？ コロナ禍をうたいあげた世界の詩人たちの詩が、この一冊に詰まっています。

前島 賢士(経営学科非常勤講師)著

『日本のホワイトカラー犯罪』

学文社 2020年9月 2100円



合法的な職業についている人物が、その職業上犯す犯罪である「ホワイトカラー犯罪」は、なぜ起こるのでしょうか。日本でのホワイトカラー犯罪について、犯罪者が行なう正当化などを取り上げます。

尾玉 剛士(フランス語学科専任講師)分担執筆

『どうする日本の福祉政策』

ミネルヴァ書房 2020年10月 3000円



私たちの生活を支える雇用、社会保険、生活保護。近年、社会情勢の変化に伴い、この3つに結びが見えています。日本における福祉の現状と今後、そのリアルをこの一冊で読み解いています。

白川 貴子(交流文化学科非常勤講師)共訳
(マデレーン・オルブライト著)

『ファシズム：警告の書』

みすず書房 2020年10月 3000円



ナチスドイツとソ連というふたつの「ファシズム」の脅威により2度の亡命を経験し、アメリカ初代女性国務長官として金正日やプーチンらとも交渉した経験を持つ著者が現代政治に投げる警告の書です。

■ 獨協大学ニュース「本箱」欄に掲載する新刊情報をお寄せください。

本学教職員(非常勤講師含む)が執筆した単著・共著・分担執筆・監修・翻訳書などの新刊情報を募集しています。新刊がありましたら、中央棟2階総合企画課までご持参ください。表紙撮影後、返却いたします。

第54回卒業式・第43回学位記授与式

今年度は、学部を指定して2部制で挙行します。また、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策として、式典への参加は卒業生・修了生のみとします。当日は式典の様子をライブ配信する予定です。

📅 3月20日(土・祝) 10:00~(入場開始9:00~)

📍 獨協大学35周年記念館アリーナ

- ・第1部 式典時間 10:00~10:40(予定) 外国語学部・法学部
- ・第2部 式典時間 15:00~15:40(予定) 国際教養学部・経済学部・大学院

なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況によって、式典を縮小または中止とする可能性があります。変更等は決まり次第、ホームページ及びPorTaIIにてご案内します。

※学内で着物レンタルを希望する場合は、獨協大学同窓会(TEL: 048-941-6865)までお問い合わせください。

■ 2020年度秋学期「学生による授業評価アンケート」「学生による教育環境改善のためのアンケート」にご協力ください

詳細はPorTaII→「ダウンロードセンター」→「学生用フォルダ」→「授業評価(教育改善)アンケート」の資料を確認してください。

実施期間: 1月9日(土)~1月27日(水)

対象: 全学生

回答方法: PorTaII→「履修」タブ→

「授業評価(教育環境改善)アンケート回答・参照」から回答

所要時間: 約30分

問い合わせ先: 自己点検・評価室(6棟1階)

☎ 048-946-1824 または 048-951-2226

✉ jikotenken@stf.dokkyo.ac.jp

奨学基金充実のための寄付金募集事業報告

寄付申込者ご芳名(2017年10月1日~2020年12月15日)

■ 申込件数(延件数): 636件 ■ 総額: 24,456,000円

個人

法人



教職員による学生の学業継続支援のための寄付金募集報告 寄付申込者一覧(2020年5月26日~12月15日)

■ 申込者数: 183名 ■ 総額: 23,680,817円



ぶらりらいぶらり

Vol. 98

電子図書(オンラインブック)を読んでみよう

図書館では、自宅にいながらアクセスできる電子図書の提供を充実させています。特におすすめのプラットフォームを3つ紹介します。

①Maruzen eBook Library

<https://elib.maruzen.co.jp/elib/>

契約タイトル: 約1400点 約7万冊搭載。

2021年3月末まで全文試し読み実施中(一部対象外あり)



②KinoDen

<https://kinoden.kinokuniya.co.jp/dokkyolib/>

契約タイトル: 約60点 約3万冊の搭載。

2021年1月末まで全文試し読み実施中(一部対象外あり)



③LibrariE(ライブラリエ)

<https://www.d-library.jp/dokkyolib/>

『Oxford Bookworms』、『IBC Ladder』、『岩波少年文庫50冊セット』が利用できます。



・①②はIPアドレス認証。学外からのアクセスはご利用の端末にSSL-VPN接続の設定が必要です。

利用マニュアルは、PorTaII→ダウンロードセンター→学生用フォルダ→コンピュータ・Wi-Fi など→SSL-VPN接続の利用方法→利用マニュアル から取得できます。

・③の利用にはID・パスワードが必要です。PorTaII「掲示」の「図書館・学修支援」から、「LibrariE(ライブラリエ)の利用方法」をご確認ください。

・電子図書の一覧は図書館ホームページトップ→「図書・資料を探す」→「オンラインブック」から確認できます。またOneSearchや蔵書検索OPACから検索できます。

編集 総合企画部(中央棟2階) TEL048-946-1635 kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

学生記者 〔五十音順〕	伊藤 あす美(国関法2年)	宇野 季咲良(営4年)	遠藤 夏乃(済2年)	遠藤 瑞稀(言4年)
	川上 徹也(環3年)	窪田 実優(英4年)	越川 響(律4年)	小林 優麻(律3年)
	高橋 弘行(済2年)	土屋 香奈(英4年)	初澤 汐里(独3年)	深見 勇斗(国関法4年)
	古田 千夏(独3年)	保科 南実(交4年)	目谷 望実(営4年)	

